

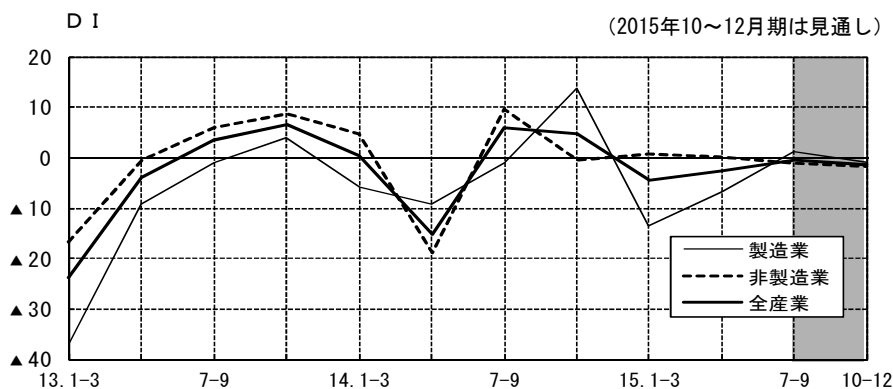
業況概要(自社)

～全産業D Iは緩やかな上昇が続く～

静岡県東部地域における2015年7～9月期の業況判断D I (対前期比)は、全産業で▲0.4 (前期▲2.6)となり、緩やかな上昇が続く。製造業では前期D Iが改善したパルプ・紙・紙加工品や食料品では低下したが、金属製品や一般機械器具でD Iが上昇した結果、全体でも1.1 (前期▲6.7)と3期ぶりのプラス水準となった。一方、非製造業では旅館・その他宿泊所で大幅にD Iが上昇したが、その他小売・サービス業等では低下したため、全体でも▲1.2 (前期0.0)とわずかに低下している。

2015年10～12月期の予想D Iは、全産業で ▲1.6と今期比わずかに低下を見込んでいる。業種別でも製造業▲1.1、非製造業▲1.9と、今期比横ばいからやや弱めの見通しとなっている。

《業況判断指数推移》



全産業D I

年	期	D I
13年	1-3	▲23.8
	4-6	▲3.8
	7-9	3.4
	10-12	6.7
14年	1-3	0.4
	4-6	▲15.2
	7-9	5.9
15年	1-3	▲4.4
	4-6	▲2.6
	7-9	▲0.4
	10-12	▲1.6

D I : ディフュージョンインデックス(Diffusion Index)の略。

「上昇、増加、好転」した企業割合から「下降、減少、悪化」した企業割合を差し引いたもので、業況判断を見る指標です。

《業種別天気図》

業況上昇 ← → 業況下降

	製造業	食料品	パルプ・紙・紙加工品	一般機械器具	非製造業	卸・小売・サービス業	旅館・その他宿泊所	建設業
2015年 4～6月期	☁	☀/☁	☁	☁	☁	☁	☀/☔	☁
2015年 7～9月期	☁	☀/☁	☁/☔	☀/☁	☁	☁	☀/☁	☁
2015年 10～12月期	☁	☁	☀/☁	☁/☔	☁	☁	☁	☁

※2015年4～6月期と7～9月期は前期比、10～12月期は今期比見通し

《調査の概要》

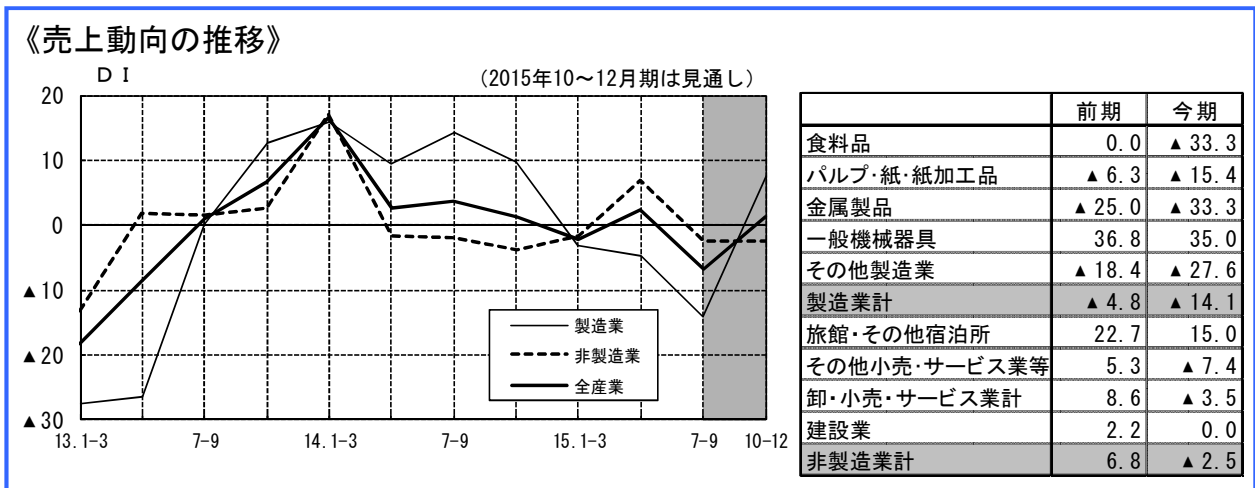
- 調査目的
静岡県東部地域(富士川以東)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握
- 調査対象企業
静岡県東部地域に立地する企業 500社
回答数254 (回答率50.8%)
※業種別企業数は4ページ図表を参照
- 調査方法
当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査
- 調査対象期間
実績: 2015年7～9月期
見通し: 2015年10～12月期
- 調査時点
2015年8～9月

売上動向

製造業、非製造業ともD I 低下、全体でマイナス水準に転じる

2015年7～9月期の全産業の売上動向D I (対前年同期比)は▲6.7 (前期2.3)と低下し、前期のプラス水準からマイナス水準に転じた。製造業では、食料品 (▲33.3) が前期比で大幅に低下、パルプ・紙・紙加工品 (▲15.4)、金属製品 (▲33.3)、一般機械器具 (35.0) など他の業種でもいずれも下降したため、全体で▲14.1 (前期▲4.8)と4期連続の低下となった。一方、前期上昇した非製造業も、その他小売・サービス業等 (▲7.4)、旅館・その他宿泊所 (15.0) など各業種でD I が低下したため、全体でも▲2.5 (前期6.8)と低下に転じている。

2015年10～12月期の予想D I は、全産業で1.2と上昇が見込まれている。うち、製造業では7.6と今期比大幅な上昇が見込まれているが、非製造業は▲2.5と横ばいの予測にとどまっている。

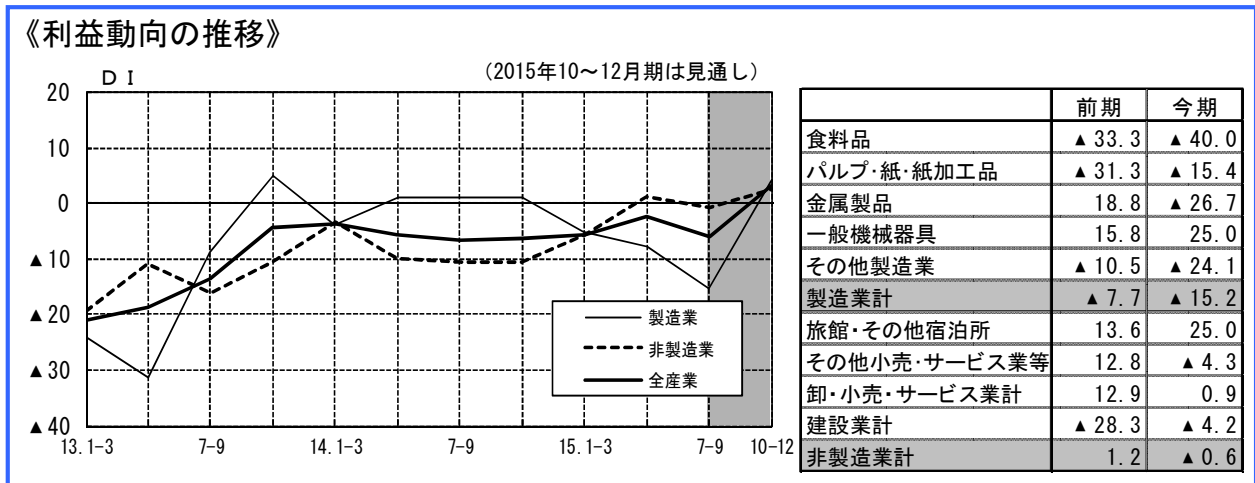


利益動向

製造業はD I の低下続く、非製造業も若干の低下に転じる

2015年7～9月期の全産業の利益動向D I (対前年同期比)は▲5.9 (前期▲2.3)と前期比下降に転じた。製造業では、パルプ・紙・紙加工品 (▲15.4) では回復傾向が続き、一般機械器具 (25.0) も上昇しているが、金属製品 (▲26.7) でD I が大幅に悪化、食料品 (▲40.0) もさらに下降したため、全体では▲15.2 (前期▲7.7)と3期連続で低下になっている。一方、非製造業では建設業 (▲4.2) と旅館・その他宿泊所 (25.0) ではD I が改善されたが、企業数の多いその他小売・サービス業等 (▲4.3) で前期比10ポイント以上下降したため、全体では▲0.6 (前期1.2)と若干低下に転じている。

2015年10～12月期 (見通し)の予想D I は、全産業で3.2と回復への期待がみられる。業種別でも製造業で4.3、非製造業で2.5といずれも上昇が見込まれている。



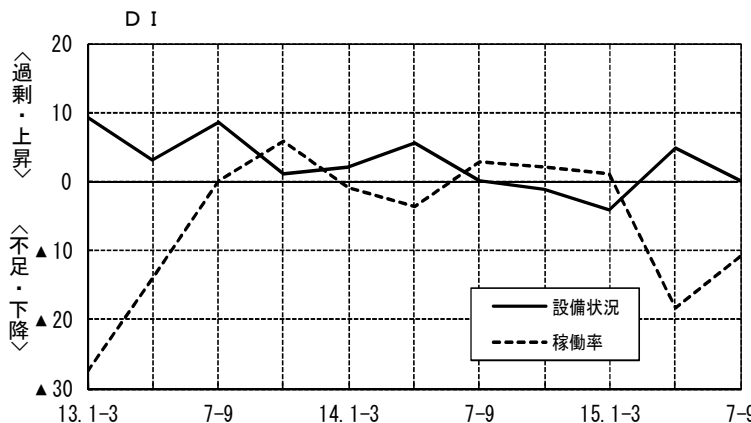
設備状況・稼働率
(製造業)

設備状況は「適正」、稼働率は前期比上昇も「下降」判断続く

2015年7～9月期の設備状況DIは0.0(前期4.9)と、前期の上昇から再び低下に転じ、判断は「過剰」から「適正」となった。業種別では、金属製品(6.7)のみ前期比上昇で「適正」から「過剰」となったが、パルプ・紙・紙加工品(0.0)、食料品(13.3)、一般機械器具(▲15.0)、その他製造業(0.0)はいずれもDIが前期比低下している。

一方、稼働率DIは▲10.9(前期▲18.3)と上昇に転じたが、前期の大幅な低下分を回復するには至らず、判断は引き続き「下降」の状態にある。業種別では一般機械器具(15.0)、金属製品(▲6.7)、その他製造業(0.0)でDIが改善されているが、食料品(▲53.3)やパルプ・紙・紙加工品(▲30.8)ではDIが前期比低下し、大幅なマイナス水準に悪化するなど、業種による差異が大きくなっている。

《設備状況・稼働率の推移》



設備状況	前期	今期
食料品	20.0	13.3
パルプ・紙・紙加工品	12.5	0.0
金属製品	0.0	6.7
一般機械器具	▲10.5	▲15.0
その他製造業	5.4	0.0
製造業計	4.9	0.0

稼働率(対常態)	前期	今期
食料品	▲26.7	▲53.3
パルプ・紙・紙加工品	▲18.8	▲30.8
金属製品	▲25.0	▲6.7
一般機械器具	▲10.5	15.0
その他製造業	▲15.8	0.0
製造業計	▲18.3	▲10.9

在庫状況
(製造業)

DIは低下に転じる、一般機械器具や金属製品などで過剰感が緩和

2015年7～9月期の在庫状況(製造業)DIは7.7(前期14.7)と3期ぶりに低下に転じ、在庫過剰感は緩和されている。全体の回答状況についてみると、「過剰」の割合が14.3(前期16.7%)と若干低下、一方「不足」は6.6(同2.0%)と割合が上昇している。

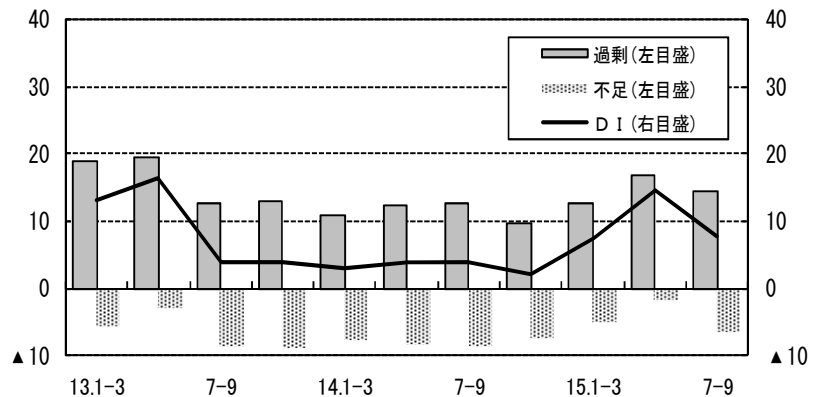
業種別では、食料品(0.0)は前期と同水準で推移、パルプ・紙・紙加工品(23.1)では前期に続いてDIが上昇した。一方で、一般機械器具(5.0)と金属製品(▲7.1)ではDIが低下に転じ、一般機械器具では在庫過剰感が後退、金属製品は不足傾向に転じるなど、上記の稼働率と同様に、業種による動きの差異が目立つ結果となっている。

《在庫状況》

	(前期) 2015年 4～6月期	(今期) 2015年 7～9月期
過 剰	16.7 %	14.3 %
適 正	81.4 %	79.1 %
不 足	2.0 %	6.6 %
D I	14.7	7.7

(%は回答企業の比率)

《在庫状況の推移》



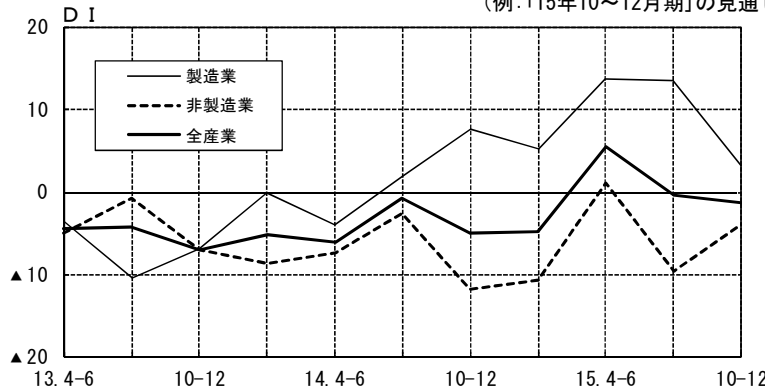
設備資金借入
動向(来期)

製造業はD I 低下、非製造業は上昇し、両者の動向の差は縮小

2015年10～12月期(来期)の全産業の設備資金借入動向(見通し)D Iは▲1.2(前期▲0.4)とわずかながら低下し、2期連続でマイナス水準となった。業種別でみると製造業では金属製品(0.0)、パルプ・紙・紙加工品(23.1)、食料品(▲6.7)などでD Iが低下し、全体では3.3(前期13.6)と借入意欲は低くなっている。一方、非製造業では旅館・その他宿泊所(▲5.3)や建設業(▲2.1)でD Iが改善されたことから、全体でも▲3.8(前期▲9.6)と上昇に転じ、借入抑制の動きは弱まっている。この結果、前期いったん開いた製造業と非製造業との動向の差は縮小している。

《設備資金借入動向推移(見通し)》

※すべて「来期の見通し」について調査
(例:「15年10～12月期」の見通しは、同7～9月期時点の調査結果による)



	前期	今期
食料品	0.0	▲6.7
パルプ・紙・紙加工品	31.3	23.1
金属製品	12.5	0.0
一般機械器具	15.8	20.0
その他製造業	10.8	▲10.3
製造業計	13.6	3.3
旅館・その他宿泊所	▲23.8	▲5.3
その他小売・サービス業等	▲4.4	▲4.4
卸・小売・サービス業計	▲8.0	▲4.6
建設業計	▲13.3	▲2.1
非製造業計	▲9.6	▲3.8

経営上の問題点

「従業員の高齢化」と「求人難」の上昇が目立つ

最も回答数の多い「受注・売上の停滞・減少」(52.8%)の割合が2期連続で上昇している。また、「従業員の高齢化」(33.1%)が各業種で、「求人難」(25.6%)が非製造業を中心にそれぞれ回答数が増加し、順位を上げるなど上昇が目立っている。一方で、「原材料・仕入商品の値上がり」(27.2%)は製造業で回答数が減少し、全体における重要性も低下傾向が続いている。

《経営上の問題点(上位8項目)》

(社、%)

	15年1～3月期		15年4～6月期		15年7～9月期		順位 変動
	企業	比率	企業	比率	企業	比率	
1. 受注・売上の停滞・減少	131	48.2	132	49.6	134	52.8	→
2. 従業員の高齢化	76	27.9	71	26.7	84	33.1	↑
3. 人材の育成	100	36.8	97	36.5	79	31.1	↓
4. 過当競争・製品安	78	28.7	82	30.8	77	30.3	↓
5. 原材料・仕入商品の値上がり	96	35.3	82	30.8	69	27.2	↓
6. 求人難	53	19.5	54	20.3	65	25.6	↑
7. 生産・販売能力の不足	47	17.3	54	20.3	49	19.3	→
8. 人件費の増加	67	24.6	61	22.9	47	18.5	↓

《業種別：回答企業数およびD I》

※設備資金は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	企業数	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	設備資金
食料品	15	▲33.3	▲40.0	13.3	▲53.3	0.0	▲6.7
パルプ・紙・紙加工品	13	▲15.4	▲15.4	0.0	▲30.8	23.1	23.1
金属製品	15	▲33.3	▲26.7	6.7	▲6.7	▲7.1	0.0
一般機械器具	20	35.0	25.0	▲15.0	15.0	5.0	20.0
その他製造業	29	▲27.6	▲24.1	0.0	0.0	13.8	▲10.3
製造業計	92	▲14.1	▲15.2	0.0	▲10.9	7.7	3.3
旅館・その他宿泊所	20	15.0	25.0	-	-	-	▲5.3
その他小売・サービス業等	94	▲7.4	▲4.3	-	-	-	▲4.4
卸・小売・サービス業計	114	▲3.5	0.9	-	-	-	▲4.6
建設業計	48	0.0	▲4.2	-	-	-	▲2.1
非製造業計	162	▲2.5	▲0.6	-	-	-	▲3.8